

はリンク

はWAMNETの事業者情報にリンク

事業所名 グループホーム ぶどうの家

日付 平成19年8月20日
特定非営利活動法人

評価機関名 ライフサポート

評価調査員 在宅介護経験9年

評価調査員 介護支援専門員経験5年

[自主評価結果を見る](#)

[評価項目の内容を見る](#)

[事業者のコメントを見る\(改善状況のコメントがあります!\)](#)

1. 評価結果の概要

講評

全体を通して(特に良いと思われる点など)

今年のお正月に、皆で食事をしている時「今年1年でやりたい事を言い合ってみよう」という話になった。一人ひとり利用者が抱負を語る中に、さんの「宝塚歌劇を見に行きたい」の言葉に歓声が上がり、「ぶどうの家平成19年目標・宝塚歌劇団を見る」の大目標が居間の壁に2ヶ所大きく掲げられた。

前回の外部評価の時にこれを見つけた時、ちょっとびっくりしたが、今回の訪問では本当にびっくりしてしまった。今年の6月4日「レビュー・タカラヅカ岡山公演」に利用者4人と職員3人が行って来たと言うではないか。宝塚まで出向いてでも行きたいと調べていた所、丁度岡山公演が来るのを知った事、山陽放送職員が車椅子・トイレ・席等、協力してくれた事も幸いして実現した。「夢のようだった」「夜、2時間半のメロディ・アンド・メモリー公演だったのに、みんな目がキラキラしていた」と今も興奮冷めやらぬおももちだ。

この話だけではない。少し前には親族と長年音信不通だったある利用者の覚束無い話しをたよりに小豆島に1泊がかりで捜して、奇跡の再会を果たしたし、今度は九州くんだりまで出かけてある人の長年の思いを実現させる計画があると言う。利用者や職員の思いは奇跡を呼び、周囲の人の善意も呼んでいる。

グループホームを数多く訪問して「一人ひとりの今の思いを大切に、その人の願いが叶えられる支援を」と謳(うた)っている所にたくさん出会う。しかし、この「ぶどうの家」程その人の思いにしっかり耳を傾け、実現させている所は少ない。利用者の人数が少ないという動き易さもあるかもしれないが、日常的に職員全員が「利用者の深い所まで知りたい。その為、自分のアンテナを目一杯張り巡らしておこう」という姿勢があちこちで伺える。

また、これ程のケアサービスの質の高さを維持している現段階でも、さらなる向上を目指して、月1回、外部からそれぞれの専門分野別の講師を招いて職員の勉強会をしている事は素晴らしい。「ぶどうの家通信」で地域社会の人々にも「いっしょに勉強しませんか」と呼びかけをしている所も良い試みと思う。この輪や幅が広がっていく事は、地道な草の根的なつながりに通じるかも知れない。期待している。

特に改善の余地があると思われる点

岡山県内で、また、さらに広域レベルでの「ぶどうの家」の知名度はとても高いのに、地元であるこの地域社会に「こんなに素晴らしい認知症対応の事業所が存在する事」があまり知られていない。もちろん地域の体質や特性もあるので、決して容易な事とは思わないが、今將に始めようとしている交流を少しずつ、地道に積み重ねていって下さい。前回の外部評価時より一歩踏み出せているので、喜んでいきます。

利用者が生活する舞台は職員一人ひとりの業務の積み重ねによって成り立っている。これらの改善はこれで良いという限界もない。具体的な目標を作って、一つひとつ地道に積み重ねていってほしい。

2. 評価結果（詳細）

I 運営理念

番号	項目	できている	要改善
1	理念の具体化、実現及び共有		
記述項目	グループホームとしてめざしているものは何か		
記述回答	<p>自主評価に関して…：「地域との連携と交流」については、運営推進会議を通して、例えば地域のボランティアサークルや婦人会、幼・小・中学校との交流を計画中であるし、「たより」を配布して近隣住民にPRして「遊びに来れる関係作り」のきっかけを作り始めた所で、これからだろう。</p> <p>全体を通して…：代表者・管理者・職員共から「大型施設では利用者からの声かけがあっても直ちに対応出来ないが、ここではこちらからたっぶり声かけしたり、共に過ごしてしっかり耳を傾け、すぐに応じられるからうれしい」の声が聞こえてくる。そして、「ちょっと見ただけでは、職員なのか利用者なのか、それとも、ボランティアが分からない」といった対等の人間関係が感じられる雰囲気があるのが素晴らしいと思う。こんなホームはとても嬉しい。</p>		

II 生活空間づくり

番号	項目	できている	要改善
2	家庭的な共用空間作り		
3	入居者一人ひとりに合わせた居室の空間づくり		
4	建物の外回りや空間の活用		
5	場所間違い等の防止策		
記述項目	入居者が落ち着いて生活できるような場づくりとして取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>自主評価に関して…：要改善項目なし。</p> <p>全体を通して…：民家を改造しているの、居室も玄関もトイレ・風呂・台所も、「普通の家」そのものである。利用者の好みもあるから一概には断定出来ないが、「施設的な雰囲気」は微塵もなく、自分の家に居る感じでとても落ち着ける。心配になってくる段差や狭さも、今の段階ではプラスに転じている。利用者は段差によく気を付けて、そこでは注意して歩いているし、動き難くなった人も家具や柱につかまりながら移動している。人と人が身近に居る事が多いのでスキンシップもたっぶりだ。反面仲良くなり過ぎての小競り合いも、居間の頻繁な配置換えや、職員の予めの気配りで何とかかわっている。普通の家庭で起きるような事がここでも起きて当然と思う。</p>		

III ケアサービス

番号	項目	できている	要改善
6	介護計画への入居者・家族の意見の反映		
7	個別の記録		
8	確実な申し送り・情報伝達		
9	チームケアのための会議		
10	入居者一人ひとりの尊重		
11	職員の穏やかな態度と入居者が感情表現できる働きかけ		
12	入居者のペースの尊重		
13	入居者の自己決定や希望の表出への支援		
14	一人のできることへの配慮		
15	入居者一人ひとりに合わせた調理方法・盛り付けの工夫		
16	食事を楽しむことのできる支援		
17	排泄パターンに応じた個別の排泄支援		

III ケアサービス(つづき)

番号	項目	できている	要改善
18	排泄時の不安や羞恥心等への配慮		
19	入居者一人ひとりの入浴可否の見極めと希望にあわせた入浴支援		
20	プライドを大切にした整容の支援		
21	安眠の支援		
22	金銭管理と買い物の支援		
23	認知症の人の受診に理解と配慮のある医療機関、入院受け入れ医療機関の確保		
24	身体機能の維持		
25	トラブルへの対応		
26	口腔内の清潔保持		
27	身体状態の変化や異常の早期発見・対応		
28	服薬の支援		
29	ホームに閉じこもらない生活の支援		
30	家族の訪問支援		
記述項目	一人ひとりの力と経験の尊重やプライバシー保護のため取り組んでいるものは何か		
記述回答	<p>自主評価に関して…：要改善項目なし。</p> <p>全体を通して…：「一人ひとりの思いを何とか実現させたい」という気持がこれ程強いグループホームはあまり無いのでは？と前述したが、この為には「その人の能力と経験」を深く知り、尊重する事が大前提となるだろう。このホームには特別な日課のようなものはない。「今日はどうする？」「どこへ行きたい？」「今、何が食べたい？」から、今日の一日が始まる。こんな積み重ねが「どんな風に暮らしたいか？」「ここで、どんな生き方をしたい？」と一緒に考える関係が成り立っていく。この関係をより深くしていくのが「さんマップ」だ。このマップには、本人の言葉、思い、性格、趣味、人間像等、ありとあらゆる情報が散りばめられていて、興味深く見易い。「この人を大切に思い、より深く知ろう」とする職員の心が伝わってくる。</p>		

IV 運営体制

番号	項目	できている	要改善
31	責任者の協働と職員の意見の反映		
32	災害対策		
33	家族の意見や要望を引き出す働きかけ		
34	家族への日常の様子に関する情報提供		
35	運営推進会議を活かした取組		
36	地域との連携と交流促進		
37	ホーム機能の地域への還元		
記述項目	サービスの質の向上に向け、日頃から、また、問題発生を契機として、努力しているものは何か		
記述回答	<p>自主評価に関して…：「家族同士の交流促進」が要改善となっていて「行事への参加呼びかけ、旅行への参加呼びかけ」を予定している。サービスの質の向上を目指す地域交流と家族交流は欠かす事の出来ない重点目標にしたい。今年度のもう一つの大目標が「旅行(温泉・ごちそう)に行きたい」となっているが、これに家族が少しでも加われば、大きな飛躍となるだろう。</p> <p>全体的に見て…：現段階で皆で取り組もうとしている事の一つに「ターミナルケア」が挙げられていると聞く。利用者の今後の状況を慮(おもんばか)って、今のうちに多角的に準備し、職員、家族の意思確認及びこれに関わる関係者の相互理解を得ておく必要があるだろう。この為の準備や話し合いの過程がケアサービスのさらなる質の向上につながるものと思われる。家族や関係者より深い絆を結ぶ良いチャンスともなる。</p>		